

話題87 ティータイム (14) 床屋さんと外科医～徒弟制度と信頼関係～

月末の土曜日。決まって、行きつけの床屋さんに行く。20年、いや30年以上も続いている習慣である。さてと、今日もと思い、段取りを整えたものの、気になる患者さんが目に浮かんだ。予定を変更し、職場に向かった。約1時間の道のりである。落ち着いた病棟の様子を確認し、指示を出して、ほっと一息。家路につく。

いつもの時間帯とは異なり、昼過ぎに床屋さんに向かった。心地よい疲れで、散髪の最中にいびきをかいで寝入ってしまった。10分程度ではあろう・・・か。「申し訳ない、寝入ってしまった」と話しかけると、大将の返事に修行時代の想いがよみがえった。

修行中に、師匠から言われたとのこと。「誇りを持ちなさい。床屋とは、こんなにも鋭い刃物を持った職業である。そこで、お客さんが寝入ってしまう。そこには、信頼関係の基本、そのものがある」と。

床屋さん同様、外科医の修練も伝統的に徒弟制度の要因が強い。強かった。鬼の〇〇先生なる存在が、常に存在した。先ずは、手術の助手につく。数日前からの緊張感。当日、頭と手がうまく連動しない。一件の手術で10回、20回と怒鳴られる。耐えて、耐えて、腕を磨く。

型どおりにいかいなのが外科医の世界かもしれない。術前に細かく検査、評価し、「切除可能」と判断し、同意を得て手術に踏み切る。しかし、予想外の展開もある。特に、悪性の病気においては。事が予定どおりに進行しない場面においても信頼関係は大切である。

大将と意気投合。なんとなく、寂しい時代になりましたね。お寿司屋さんが典型的ですね。板前修業の時代は終り、回転寿司の時代になって。

それとも、「頭」の回転の切り替えが求められているのだろうか・・・。